



やまゆり

学校だより

令和5年9年月22日
43号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育目標重点 「 保護者・地域との連携 」

若鮎祭へのご意見・ご感想をありがとうございました

若鮎祭へのご意見やご感想を20日(水)までに、たくさん頂きました。ご協力に感謝致します。ありがとうございました。励ましのお言葉や、ご意見を今後の教育に生かしたいと思えます。

頂いたご意見には改善の要望等もありました。生徒、教職員、保護者の方々の声にそれぞれの立場で耳を傾けて頂き、ご理解とご協力を頂きながら今後、教職員や生徒とも相談してより充実した教育活動に生かしたいと思えます。

様々な考えがあることを尊重しながら、他の生徒・保護者・教職員の声も紹介致します。

若鮎祭を指導する学校の事情や指導についてご理解下さい

1 業務改善を求められる「教職員の多忙化」への対応

教職員は、法律や文部科学省や県教委等から残業時間を月45時間以内にするように求められています。本校の教職員を含め全国の中学校の教職員の77%は守られていない実態です。文科から業務改善を求められ、他の中学校では、文化の部をしない学校もあります。本年度も取り組み時間がとれないために、「総合的な学習の時間」(太鼓・個人発表)や教科の授業の成果発表を取り入れていることを理解して頂きたいと思えます。

演目は他の学校より多く、教職員は少ないのが実態です。さらに、コロナ・インフルエンザ・熱中症、生徒への対応への打合せ時間等もあり、校長の立場では教職員の命と健康を守るのも難しい状態であることをご理解下さい。

2 「特別活動や学習時間の確保」への対応

学園祭の取り組みは「特別活動」で行います。年間35時間で、そのうち10時間は進路に充てます。学園祭期間には約20時間を充て、部活動の時間を無くして活動しています。

太鼓演奏・体育部門・文化部門・生徒会執行部の活動、縦割り班の表現活動等に時間を割り振り、生徒会執行部の生徒・顧問・教務主任が苦勞して作成した日程表に沿って活動しました。9月3日には、生徒の希望を生かし、道の駅での発表も実行しました。

10月3日に3年生は「教育課程到達度確認検査」があり、学力保障の観点からも法律上もこれ以上の時間の使い方は出来ない状態です。

3 「生徒の興奮ではなく、一人一人が本気で取り組む指導による感動」を得る指導

一人一人の生徒が本気で取り組み、達成感を得られる指導をしています。生徒が本気で一生懸命に取り組んでいる姿、本当に友を想い協働する活動を見ていただけたと思えます。

改善のご意見 ※紙数の関係で主な改善意見を掲載します

○先生主導ではなく、自分たちで創造して創り上げた学園祭にしてほしい。子供たちが何を見せたいのかを、テーマに応じて活動し自主創造してほしい。(1名)

説明とご理解のお願い 「生徒の声」 今年の若鮎祭で心に残ったこと

- 縦割り班でいじめをテーマにした発表を自分たちで一から考えて発表したり、心肺蘇生法も昨年度の先輩方を超える挑戦をしながら、若鮎祭のテーマNo Limit(限界を超える)を全員で達成できたことが一番心に残っている。
- 全員が全力で最初から最後まで取り組み、悔いなく終わることができた。見て頂いた保護者や地域の方々の中には、涙を見せて下さった方もいた。全員が本気で取り組んだことによって自分たちだけでなく、見ている方にも感動を与えることができた若鮎祭だった。
- 若鮎祭テーマを全員が達成でき、一人一人が積極的に活動し、しかも全員の心を一つにすることができた。
- 若鮎祭を通して「満足感」や「達成感」を味わうことが出来ましたか。（生徒会アンケート）

「全校生徒の満足感・達成感の自己評価の平均点」(最高4点)は、**3, 9点**

「保護者の声」

- 各グループ長がまとめて盛り上げ、チームごとのカラーがあり、終始笑顔の子供たちの顔を見て、こちらも心から楽しめた若鮎祭だった。短い期間、様々な制約の中で工夫をしながら最高の若鮎祭にしたいという全校生徒の想いが多くの場面でみられた学園祭だった。
- どの場面でも生徒がカー杯全力で！という姿勢が一人一人の活動から感じる事が出来ました。生徒一人一人が真剣に取り組む様子が本当に素晴らしく、感動しました。また、他者への感謝と思いやりの心が言葉や行動に表れていたのがとてもうれしかったです。

「教職員の声」

- 生徒会執行部を中心に、主体性と協働性を高めるように指導した。例年に比較すると、生徒が安定しており活動意欲も高いので、実行委員長や生徒が考え、話し合い、自己決定をする場を多く設定した。特に生徒の話し合いは、県下の中学校では一番時間が確保されていたと思う。異学年・全校の交流が広がり・深まった点も大きな成果であった。

改善の要望

- 心肺蘇生の発表は学園祭でやらなくて良い（2名）

説明とご理解のお願い

「生徒の声」 今年の若鮎祭で心に残ったこと

- 救急救命法は、実際には室内より外の方が確率が高いのではないかと生徒が考え、初めて外で活動することに挑戦した。また、各自が一人一人実践出来ることと保護者や地域の方々に参加していただき、道志村で一次救命を出来る人を増やす目的で行った。当日は、多くの保護者の方々や地域の方々にも参加してもらい一緒に実践することができた。
- 体育部門での救急救命は初めての試みだった。また、保護者や地域の方々と一緒に活動し、しっかり覚えることができた。
- 練習から大切な人の命を救うために本気で取り組んだ。本番でも、生徒や保護者と活動したことが印象に残った。

「保護者の声」

- 救命救急は、去年は「学園祭でなくても・・・」とも思ったが、今年は、日頃の学習の成果の発表として見た。息の合った声かけや、体に染みついた救命の動作をみて、これくらい一人一

人ができれば、いざというときに本当に救急救命ができるのではないかと思います。

「教職員の声」

- 救急救命方は、「生徒のより実践に近い方法で行いたい」との希望を取り入れて実践した。個人で確実に出来ること、保護者や地域の方々も参加していただくことは道志村にとってとても良い教育活動になることを考えるととても良い教育活動だと思う。
- 昨年度からさらに挑戦して進化した。地域の方々と協働して人命救助の活動をしている姿に感動した。太鼓と同じように外部人材を活用した校医さんによる専門家の指導や、「より良い学校教育を通して、より良い地域を創造する」という文部科学省や県教委の指導に沿った価値ある活動だと考える。
- 生徒が学校で身に付けた知識や技能が、保護者や地域の方々に役に立ち、大切な命を救う活動になることはとても意義がある。

改善の要望

- | |
|---|
| ○縦割り班の発表は、内容が浅い。安易に解決する劇なら全校生徒で取り組むか、劇でない方が深みが出る・汚い言葉遣いに不快になった(各1名) |
|---|

説明とご理解のお願い

「生徒の声」 今年の若鮎祭で心に残ったこと

- 文化の部の表現活動がとても心に残った。それぞれのグループが協力しながら、台本から全てを生徒が協力して発表した。とても苦勞した。悩みも多かったが、先生にも相談しながら完成させることができた。
- 縦割り班で協力し、学年の壁を越えて交流しながら各班で発表した。お互いに意見を出し合う中で、他学年の人とも親しくなり、縦割り班の中に「居場所」ができた。
- 縦割り班のグループ表現は、時間が無い中で演技したとは思えないほどの班もいじめの知識を活用してクオリティの高い発表ができた。
- 異学年交流の成果 生徒会アンケート

他学年交流の満足感(最高4)は、全校生徒の平均満足度3,7点



※質の低さは捉え方の問題であり、生徒は活動を通して質以上のものを学んでいる様子です

「保護者の声」

- 縦割り班の表現活動は新たな試みだった、生徒が成長し変われる良い場だと思った。
- 縦割り班の表現活動で、生徒の新しい一面を見ることができてうれしかった。

「教職員の声」

- 縦割り表現活動は、テーマ設定から台本づくりまで生徒が主体的に活動した。生徒に指導している知識や技能を活用した素晴らしい内容だった。他校の生徒にはできない、道志中生だからこそ出来る表現活動であり、3つの班の発表でさらに内容に厚みが増す構成になっていた。

内容や質に関わる評価

A班 いじめではなく、犯罪であることを認識させる発表。被害者も加害者にも重要。

B班 いじめ防止に関する「傍観者の重要性」いじめ防止の本質を捉えた内容。

C班 おとぎ話に潜む「加害」の問題提起。中学生とは思えない質の高い提起。

○いじめ防止を主体的に表現する事は重要。表現が苦手な生徒が生き生きと演じていた。

○生徒の演技の中での言葉遣いが不快であったのは申し訳ありません。「ウザい」等の言葉と思われませんが、そのような発言をしないための演技であることをご理解下さい。

改善の要望

- ①総合の発表は昨年同様残念・・・②学年ごとにプレゼンをして各学年ごとに一本に絞って発表
- ③質疑応答が短く生徒の役に立っているか疑問(①～③1名)
- ④時間的に余裕がないのなら別の機会に発表するのはどうか(4名)

説明とご理解のお願い

「生徒の声」 今年の若鮎祭で心に残ったこと

○文化部門の総合の発表で、先輩が優しく助言してくれてうれしかった。また、地域の方々もしっかり聞いてくれた。

○人前での表現は苦手だが、多くの方々の前で発表する経験ができて自信になった。

「保護者の声」

○総合の発表は生徒一人一人が大人の前で自分の考えを発表し、質問に答えていて、今からの時代には良い学習だと思った

○一人一人の生徒が、どうしたら持続可能な道志村に出来るかを考え、まとめて発表するとても良い学習である。

○総合学習の発表はとても良い。地域の方などのたくさんの人の前で発表する事によって、一人一人の思いを伝え、聞いてもらい、認めていただく活動は教育的効果が高い。

○総合学習の発表は、正直驚きました。一人一人がクロムブックを使い、自分でテーマを決め、調べ、まとめて発表し、意見交流する活動は時間が無い中でもとても貴重な発表です。

「研修医の先生」の声 ※教職員の声 地域の方々への発信・受信重要

○生徒一人一人がパソコンを使い、自分で調べて発表する力はすごい。地方の学校なのにとっても先進的な学習活動を展開してる。すばらしい。

改善の要望

○保護者の声を聞いて欲しい。生徒の要望を吸い上げて欲しい。今年の学園祭は昨年度の事を踏まえると意見を「突っぱねた」感じがしました。(1名)

説明とご理解のお願い

○文化・体育部門の演目については、教職員・生徒会執行部で合意し、生徒会執行部の提案を全校生徒で話し合い、全員の合意で実施しています。生徒から今年の演目について、不満の声は聞いていません。肯定して下さる保護者の意見や、教職員の声も聞き、参考にしていただきたいと思います。

生徒や保護者の声を聞かずに教職員が一方的に指導していると思われるのは誤解です。それは、生徒たちの主体性や協働性の努力にも関わるとも重要な内容です。実際、そのような事であれば、生徒の表情や活動に顕著に表れます。保護者の方々の満足も大切です。しかし、生徒会執行部の生徒を中心に、生徒が合意し理解して本気で取り組み全ての生徒が満足感や達成感を創り上げた49回若鮎祭であったことは理解して頂きたいと思います。

◎多くの保護者の方々から、教職員の指導や体調への配慮について感謝の言葉を頂きました。しかし、掲載することが出来ずに本当に申し訳ありません。励ましの言葉を糧に努力致します。